



主な内容

特集 暮らしの中に生きる「ジオ」

山陰海岸、世界ジオパークネットワーク加盟に向けて

- ・学校施設の耐震診断結果
- ・フォトグラフ はだしのコンサート&サンドアート ほか

2010
平成22年
7月号



4



2



1



7



5



6



3

1 丹後の冬の味覚「間人ガニ」。日帰り漁で鮮度抜群 2 豊岡の空を舞うコウノトリ。湿地帯を主な餌場とする 3 柱状節理が美しいジオサイト「玄武洞」。円山川周囲に湿地帯をつくる一因となった 4 豊岡市を貫く円山川。写真右手には湿地帯が広がっている 5 衣装などを入れる箱「柳行李」。豊岡のかばん産業の原点 6 柳行李の材料となる「コリヤナギ」。円山川沿いの湿地帯に群生 7 温泉。山陰海岸には各所に多数わき出ている

地形や地質が暮らしと密接に関係していることを教えてくれる

カニやホタルイカ：
豊かな漁場をつくる海岸地形

もう一つの特徴は、さまざまな文化や人々の営みがジオ（地質）との密接な関わりの中で形作られてきたことです。

例えば、丹後の冬の味覚の王者、ズワイガニ。丹後半島沖は良質なズワイガニの漁場で、港から近い位置にあるため、「日帰り漁」によって抜群に鮮度のよいカニをお客さんに提供することができます。

その背景には、日本海の形成過程で生まれた、海岸線からわずか15キロで水深200メートルに達するほど急傾斜の海底や、尾根と谷の起伏に富んだ海底地形があります。この地形はカニのほかにもハタハタやホタルイカなどを育み、豊かな漁場を形作っています。

玄武洞がコウノトリを育んだ？

京丹後市のおとなり、豊岡市。見事な柱状節理を持つジオサイト「玄武洞」を有するこのまちは、コウノトリの郷として有名です。日本有数のかばんの産地としてもよく知られています。実は、これらもまた、ジオと深いつながりがあるのです。

豊岡市のジオパーク普及啓発専門員、三木武行さんはこう話します。「豊岡市を貫く円山川は、玄武洞の硬い玄武岩によって河口付近の川幅が狭められています。豊岡は低地で、海岸から10キロほど内陸に入ってもわずか1メートルほど高低差がないこともあり、頻繁にはらんしていたと考えられています。そうして、川の周囲に湿地帯が広がり、コウノトリの飛来や、『コリヤナギ』の群生をもたらしたのです」

円山川の周囲には湿地帯が広がっています。湿地帯には多種多様な生物が生息し、湿地の動物を好んで食べるコウノトリを育みました。

また、湿地に群生する「コリヤナギ」という植物を材料に、衣装などを入れる箱「柳行李」がつくられるようになり、現在豊岡市の基幹産業である「かばん産業」につながったのです。

温泉や降雪…

ジオが与えてくれるもの

このほか、火山活動や断層の影響を受けてわき出した「温泉」、大陸からの季節風と日本海を流れる対馬海流がもたらす大量の「降雪」など、ジオがわたしたちに与えてくれるものは、数えればきりがありません。

山陰海岸ジオパークは、大地の地形や地質が人々の暮らしに密接に関係していることを教えてくれる場所なのです。

■世界ジオパークと日本ジオパーク 「世界ジオパーク」

ユネスコが支援する「世界ジオパークネットワーク(GGN)」への加盟を許された地域。7月現在、世界に21カ国66地域ある。日本では現在、洞爺湖・有珠山(北海道)、糸魚川(新潟県)、島原半島(長崎県)の3カ所が加盟。

「日本ジオパーク」

GGN公認の委員会「日本ジオパーク委員会(JGC)」により、「日本ジオパークネットワーク(JGN)」への加盟を認められた地域。世界ジオパークの予備軍ともいえる。11地域が加盟(世界加盟の3地域を含む)。

■ジオパークと世界遺産の違いとは？

一番大きな違いは、世界遺産が主に「保護」を目的としているのに対し、ジオパークは「地質遺産を保護しながら、地球科学の普及や環境教育に活用しようとする」点です。

なお、世界遺産に登録されると景観や環境の保全が義務付けられるので、指定地域の開発には制限がかかります。しかし、ジオパークの場合は、地域の振興のための開発行為を禁じていません。あくまでも、地質遺産を保全・活用し、地域の振興につなげることを目的としているからです。

「何より、地元の盛り上がりがあります。毎日のように地元の町内会や老人会などから『ジオサイトを案内してほしい』とお願ひされる。事務局職員は日々走り回っています」

また、京丹後市観光協会の渡邊法子事務局長は、「世界ジオパークに認定されることだけでなく、それまでの過程も大事です。ジオパーク活動は、外部の人に丹後に関心を持ってもらう大きなチャンス。これを機に、丹後の魅力を外に向けて発信する仕組みづくりをしていきたい」と、認定に向けた取り組みが地域活性化につながると期待しています。

ジオパークは、地域で暮らすわたしたちがジオに関心を持ち、「ジオを活用して地域の活性化につなげよう」と活動していくことで初めて成立します。自分たちの暮らす地域を誇りに思うことが大事なのです。

日ごろ見慣れている風景が「なぜそこにあるのか」考えてみてくださ。そうすることできっと、ジオの楽しみ方が少しずつ見えてくるかもしれません。

◆ ジオパークは、地域で暮らすわたしたちがジオに関心を持ち、「ジオを活用して地域の活性化につなげよう」と活動していくことで初めて成立します。自分たちの暮らす地域を誇りに思うことが大事なのです。

◆ ジオパークについてのお問い合わせ先
観光振興課(☎69・0450)



地質見学会(城嶋公園・丹後町間人)

8月の世界認定審査に向け、 さまざまな取り組みが進む

フォーラムや地質見学会の開催、 ジオサイトの清掃活動

「山陰海岸を世界の公園にしよう」という取り組みは、平成14年、兵庫県で始まりました。

同19年には、自治体など38団体が「山陰海岸ジオパーク推進協議会」(会長・中貝宗治豊岡市長)を設立。その翌年、「日本ジオパーク」に認定されました。

同21年10月には「世界ジオパークネットワーク(GGN)」の国内候補地に選定され、同年12月に正式に加盟申請。今年、8月初旬に控えたGGNの審査員による現地審査に向け、ジオパークフォーラムや地質見学会の開催、地域住民らによるジオサイト周辺の清掃活動など、ジオパークエリア内でさまざまな取り組みが進められています。

世界ジオパーク認定が 地域の活性化につながる

世界ジオパークに認定されるとどんな効果が期待できるのでしょうか。昨年8月に日本国内で初めて世界



4月に立岩周辺で行われた清掃活動。周辺住民ら約130人が取り組んだ

ジオパークに認定された、島原半島ジオパーク(長崎県)の推進連絡協議会事務局・杉本伸一事務局長は次のように語ります。

「流入人口などの数字としてはまだ目に見える段階ではありませんが、ジオツアーなどに関する問い合わせは確実に認定前より増えています。東京の旅行会社からジオを積極的に取り入れた企画商品を打診されたり、島原を観光目的で訪れている旅行客が『ジオについて知りたい』と事務局を訪ねたりと、大忙しです」



府立峰山高等学校教諭 小長谷 誠さん

わずか半日でこれだけの体験学習ができる地域はほかにはない

村断層(網野町)では83年前の北丹後地震と地震被害について具体的に学ぶことができます。わずか半日でこれだけの学習ができる地域はほかにはなかなかありません。

丹後の子どもたちが身近な自然から大地の成り立ちを学び、自然や科学に関心を持ってもらえる環境づくりを手伝っています。将来的には、「丹後に行けば大地のことがよく分かる」ということが遠い地域にも広がって、多くの人が丹後でジオを体験し、地球と科学に関心を持ってもらえるようになればいいと期待しています。

峰山高校が実施する「出前授業」の一環として、市内の小学校で理科の授業を行っています。丹後で採集した岩石、化石などを持ち込んだ室内学習や野外活動を行い、素晴らしい丹後の地質を通して大地の成り立ちを教えています。

市の中心の狭い地域に、理科の野外学習に適した場所がいくつもありません。小学5年生では「流水の働き」、6年生では「地層」「岩石」「化石」「地震」「火山」について学びますが、その学習内容の多くを約半日の野外活動で体験的に学習することができます。

例えば、立岩周辺(丹後町)では1500万年前の火山活動に触れ、海砂を通して竹野川の流水の働きを学ぶ。琴引浜(網野町)では1500万年前の海の地層と化石、鳴き砂と保護活動、そして現生のさまざまな生物や漂着物。郷

多くの人に丹後でジオを体験してもらいたい



郷村断層で小学生に地震について教える小長谷先生。体験的に学ぶことで具体的な理解が進む

協働

市まちづくり委員会発足 12人を委員に委嘱

市民が集う協働の拠点へ

市民局のあり方を諮問

「京丹後市まちづくり委員会」が発足し、6月3日、第1回目の委員会が市役所で開催されました。同委員会は、市民の市政への参加を促し、自治と協働によるまちづくりを推進するため市が設置したもので、市長の諮問に応じて、調査および審議を行い、その結果を答申します。委員には、市長連絡協議会からの推薦者と旧地域まちづくり協議会の経験者などから12人を委嘱しました(任期は2年間)。



第1回目のまちづくり委員会の様子(6月3日)

委員会では、委員への委嘱の交付や役員の選出が行われた後、中山市長から「地域のまちづくりを自治と協働により進める組織や活動、これらを促す施策のあり方について」「市民局に市民が集い、市民局が協働の拠点となるような市民局のあり方について(市民局のにぎわいの再生について)」の2件を諮問。今秋の答申が確認されました。

京丹後市まちづくり委員会委員のみなさん(敬称略)
会長 ○ 会長職務代理者
○ 板垣 久彌(久美浜町)
○ 西村 恒彦(大宮町)
岸村 進(峰山町)
森 米子(峰山町)
大木 満和(大宮町)
若田 幸夫(網野町)
谷津 伸幸(網野町)
佐々木正二郎(丹後町)
小谷幸市郎(丹後町)
土肥 靖昌(弥栄町)
坪倉 忠世(弥栄町)
酒井 良則(久美浜町)

協働

岡本昌明さんを新たに委嘱



6月1日、大阪市内で開かれた平成22年度「電波の日・情報通信月間」記念式典(近畿総合通信局・近畿情報通信協議会主催)で、電波利用や情報通信の発展に功績のあった個人・団体への表彰が行われ、本市が「近畿総合通信局長表彰」を受賞しました。本市では、「ふるさとケイタイ創出推進事業」を活用したICT(情報通信技術)基盤整備を積極的に推進。地域ニーズにきめ細かく対応した有害鳥獣の被害対策や農産物流通促進対策など、地域活性化へ向けた取り組みが評価されたものです。

毎月15日は、「京丹後市・防犯の日」

観光

観光業者ら外人旅行者誘致へ商談会

本市と市観光協会(長濱孝次会長)は、外国人旅行者を誘致するための「インバウンド推進事業」に取り組みんでいます。本年度は、モデル的に台湾の現地旅行社を招へいし、市内視察や商談会などを実施。本市をコースに含む旅行商品をつくってもらう取り組みを行っています。商談会は、6月8日にリゾート

モデル的に台湾旅行社を招へい



積極的な意見交換が行われた商談会

ビア久美浜(久美浜町湊宮)で開催。事前に応募のあった市内の観光事業者17者が、台湾旅行社10社との商談に臨みました。参加した市内事業者らは、パンフレットなど資料を提示し、サービス内容や施設の特徴を積極的にアピール。商談成立に向け、熱心に意見交換を行っていました。ある台湾旅行社のスタッフは、「英語や韓国語が話せるスタッフがいれば魅力的」「一人旅のプランも考えていきたい」と話していました。

農政

徳岡さんら約30人が参加 トライアル農地で除草作業

トライアル農地の取り組みの詳細は、市のホームページからご覧いただけます (http://www.city.kyotango.lg.jp/kurashi/sangyo/trial-farmland/)

手作業で雑草を抜き取る徳岡さん(右)と市有機農業推進協議会の田中功さん



教育 児童たちも参加し400人で共同作業 校庭を全面芝生化へ



網野北小学校(森本賢一 校長)で6月19日、校庭の全面芝生化を目指して苗の植え付けが行われました。同校や同校PTA、網野スポーツクラブなどで組織する同校芝生化実行委員会(委員長 川浪隆将PTA会長)が取り組んだもので、市初のモデル事業として注目されています。この日、5月8日から育成してきた「ティフトン芝」の苗5万ポットが準備されました。植え付けには、児童や保護者、地域

の住民たち約400人が参加。約1畝の校庭に保護者たちが50秒間隔で穴をあけ、児童たちが苗を植えていきました。9月には、青々とした芝生に覆われるとのこと。校庭の芝生化は、子どもの体力や運動能力を高めるほか、暑さを和らげる効果があります。森本校長は、「気持ちの良い場所で、思い切り子どもたちを遊ばせたい。地域のスポーツゾーンとしての利用も考えていきたい」と話していました。

水稲の有機栽培実証ほ場・トライアル農地(久美浜町女布)で6月27日、市政企画委員(専門委員)の徳岡邦夫さん(京都吉兆総料理長)や一般公募による参加者など約30人が、ほ場の除草作業を行いました。昨年は、日照不足や雑草による影響で米の収量が一般水田の半分程度だったことを受け、本年度は除草作業を重点的に取り組むこととしていきます。参加者たち

はこの日、約10坪のほ場にはだしで入り、「ヒエ」や「コナギ」などの雑草を手作業で丁寧に抜き取りました。作業後に行われた意見交換会では、徳岡さんが「収量の確保も大切だが、質が良いものでないと付加価値が高まらない。良質の米づくりを目指すことが大切」と話しました。また一般参加者からも多くの意見が出され、安心・安全・おいしい米づくりに対する貴重な意見交換が行われました。今年のトライアル農地は、稲の生育もよく除草対策に成功しましたので、秋には豊作が期待されます。

のびのびと砂遊びを楽しむ子どもたち

プレイフル・サンドアート in 丹後

「砂の造形づくりを楽しむことで、創造力などが培われる」と笠間教授は話す。

笠間教授のゼミ生など約20人が砂遊びのコツを子どもたちに指導。バケツに砂と海水をバランスよく混ぜて、砂を固め、スコップやヘラなどを使い、城や動物などの作品を仕上げた。完成した作品が参加者につつと披露されると、会場内から歓声が上がった。

市内の女性団体が構成する「丹後わくわくスポット『きらめき』」(小西恭子代表)が主催。砂遊びを通じて子どもの成長に関する研究をしている同志社女子大学の笠間浩幸教授を講師に招き開催した。

砂遊びを通じて子どもの成長を育むプレイフル・サンドアート in 丹後が、6月27日、久美浜町葛野浜海水浴場で開催された。市内の小学生など約100人が参加し、思い思いに砂の造形づくりを楽しんだ。



1 会話をしながら作品を作り上げていく大学生と子どもたち 2 3 集中して細部のデザインを整える 4 穴空きバケツに詰まった砂を体重をかけて固める 5 全長約6メートルのウミガメを作製した参加者



砂浜がわたしたちのステージ

「はだしのコンサート2010」宣言

琴引浜の鳴り砂。
 私たちは、その音色が「母なる地球」の命の証、
 唄声であることを知っています。
 そしてその旋律は、私たち人間によってのみ、
 変えられるものだということも知っています。
 琴引浜の白砂青松は、多くの人に愛され保全活動の輪を
 広げてきました。
 17回目を迎えた、はだしのコンサート。
 今日私たちはここ琴引浜で、
 砂をならし、全員で歌い、考えます。
 そして、世界中のすべての人々と、これから生まれてくる
 未来の人々へ、
 地球環境保全のメッセージを発信します。

2010年6月5日・6日
 はだしのコンサート2010 参加者一同

(原文のまま)



1 島津小学校児童たちが環境保全を宣言した 2 コンサートは拾ったごみが入場券。ごみを入場券に替える参加者 3 出演アーティスト・参加者・スタッフが手をつなぎ、「素晴らしい自然・環境を未来につなげていこう!」と心をつつにした 4 コンサートに聞き入る来場者ら 5 来場者からキーワードを3つ聞き、即興で曲を披露したアルケミストの2人

第17回を迎えた「はだしのコンサート2010」(同実行委員会主催)が6月5日・6日、網野町の琴引浜で開催された。

「拾ったごみが入場券」のこのコンサートは、海岸のごみ拾いから始まった。ごみを拾いながら自然の大切さや環境問題について考える機会を与えてくれる。

来場者は約2000人。潮風を受けて青空の下で野外ライブが始まると出演アーティストに歓声が上がった。

島津小学校の児童たちが「皆さんも、身近な自然や、ふるさとを守る活動に参加して」と環境保全を訴えて締めくくった。

鳴き砂から17回目の環境宣言

はだしのコンサート2010



まちのわだい

★ town topics ★



園児たち花や野菜苗の引っ越し楽しむ

6月10日

峰山幼稚園で、高校生が「鉢上げ」を指導

峰山幼稚園で6月10日、園児39人がマリーゴールドやナス、ピーマンなどの苗をポリポットに移す「鉢上げ」を行いました。5月12日に種をまき、水やりなどの世話を続けてきた苗は、5、6センチに成長。この日、種まきの指導にも当たった峰山高等学校弥栄分校農園芸科の生徒5人が来園しました。

園児たちは、「来てくれてありがとう。苗のお引っ越しを教えてください」と元気にあいさつ。生徒たちから、ポリポットの土の分量やピンセットを使った苗の植え替え方などのアドバイスを受け、一株ずつ丁寧に作業を行いました。

「ピンセットで挟んで、引っ越しすることが楽しかった」と、「苗の引っ越し」を楽しんだ園児たちは、お礼に遊戯を発表。生徒たちの手を取り、一緒に遊戯を楽しみました。

同園では、園児たちに「野菜や花に親しみを持ち、命の大切さを学んでほしい」と野菜や花づくりに取り組んでいます。育てたマリーゴールドは地元の公民館などに贈り、野菜は秋の収穫祭で味わうとのこと。



生徒からアドバイスを受け、苗をポリポットに移す園児たち

ハマグリのお返しへお願い込め

6月14日

網野北小児童が稚貝80キロ放流

網野町の小浜海水浴場で6月14日、網野北小学校の1年生35人がハマグリを放流しました。

小浜観光協会（稲垣良和会長）が、ハマグリを増殖し、海水浴客誘致に結びつけようと実施したもので、この日は約2センチの稚貝80キロを放流。はだしの児童たちは、打ち寄せる波の感触に歓声をあげながら、稚貝を力いっぱい沖に向かって投げ入れました。

同協会の谷口達彦さんは、「以前は小浜海岸には天然のハマグリがたくさんいたが、近年激減してしまいました。稚貝を根付かせて増やしたい。今後も続けていきたい」と話していました。



歓声をあげながら、沖に向かって稚貝を力いっぱい投げ入れる児童たち



湊漁協婦人部の指導でトビウオの三枚おろしに挑戦（海部小）

市内7小学校で魚料理教室

小学5年生が

6月15日

トビウオの三枚おろしに挑戦

「子どものときから魚に親しみを持ってもらうことで若者の魚離れを防ごう」と、市内7小学校の5年生を対象に、魚料理教室（市主催）が開催されました。毎年この時期に開催されているもので、府漁業協同組合網野・丹後両支所と湊漁業協同組合の婦人部がボランティアで指導に当たりました。

6月15日には、久美浜ぎょそんセンター（久美町湊宮）で、海部小学校の5年生9人がトビウオの三枚おろしに挑戦。児童たちは、慣れないながらも真剣な表情で包丁を扱い、唐揚げやつみれ汁などにして味わいました。

指導に当たった湊漁協婦人部の和田明子さんは、「普段魚を食べない子も料理教室で出た魚は食べてくれる。今後も続けていきたい」と話していました。

交流を通じて障害者への理解を

6月6日

桃山の里ふれあいフェスタに800人

「桃山の里ふれあいフェスタ2010」が6月6日、網野体育センター（網野町網野）周辺で開催され、約800人がステージイベントやフリーマーケットなどを楽しみました。

「交流を通じて障害者への理解を深めてもらおう」と、市内の障害者関係団体やボランティア団体などで実行委員会を組織し毎年取り組んでいるもので、今年で3回目の開催となります。

ステージでは、施設利用者が思い描く「まちの将来像」の発表や、網野高等学校吹奏楽部の演奏会などの催しが繰り広げられました。また、施設利用者が地元よさこいグループ「網野舞手連」と一緒によさこいを踊るなど、交流を深めていました。



「網野舞手連」とよさこいを楽しむ施設利用者（写真手前）



官舎屋上で、F-15戦闘機の飛行展示に見入る来場者たち

6月6日

経ヶ岬基地祭に3500人

F-15戦闘機の飛行展示など多彩に

航空自衛隊経ヶ岬分屯基地（丹後町袖志）は6月6日、「経ヶ岬基地祭」を開催し、基地を公開しました。同分屯基地が、地域住民との交流と部隊への理解を深めてもらうため毎年この時期に開催しているもので、市内外の親子連れなど約3,500人が来場しました。

基地内では、基地防空火器やペトリオット器材などの展示や、陸上自衛隊福知山駐屯地との共同戦闘訓練、網野中学校吹奏楽部の演奏会が催されました。また、F-15戦闘機やC-1輸送機などの飛行展示も行われました。



接戦となった2回戦（間人中対網野中）

晴天に恵まれた6月5日と6日の両日、市総合運動公園峰山球場で「市長杯争奪中学校野球大会」（市教育委員会・市中学校体育連盟主催）が開催され、市内の中学校野球部の全9チームが熱戦を繰り広げました。

選手たちは、駆けつけた応援団の力強い声援を受け、白熱したゲームを展開。決勝戦では、峰山中学校野球部が5対0で網野中学校野球部を下し、市長杯を手に入れました。

【試合結果】◇優勝：峰山中学校 ◇準優勝：網野中学校 ◇3位：大宮中学校・宇川中学校

峰中野球部が熱戦制す

6月5・6日

市長杯争奪中学校野球大会



ゲートボールで熱戦を繰り広げる選手たち(吉原グラウンド)

吉原地区が総合優勝 峰山スポーツ祭典 11種目で熱戦

梅雨の晴れ間となった6月20日、「第43回峰山スポーツ祭典」(市体育協会峰山支部・峰山町公民館連絡協議会主催)が、峰山途中ヶ丘公園(峰山町長岡)など5会場で開催され、町内8地区から約1,000人がスポーツを通して親睦を深めました。

開会式では、選手を代表してバレーボール競技に出場の中西勇貴さん(峰山町菅)が力強く選手宣誓。地区対抗戦により、ゲートボールや駅伝、軟式野球など9競技11種目で熱戦が繰り広げられました。総合成績は、次のとおり。

◇優勝:吉原地区 ◇準優勝:丹波地区 ◇3位:新山地区

ハーブの花や香りを楽しんで

講座受講生らがハーブフェスタ開催 6月27日

峰山球場近くにあるハーブガーデン(峰山町荒山)で6月27日、「ハーブフェスタ2010」が開催され、親子連れらがラベンダーのつま取り体験やハーブのブーケづくりを楽しみました。



ラベンダーのつま取りを体験する田中萌生(めい)ちゃん(右)と母親の由香さん(峰山町新治)

この催しは、峰山地域公民館が開講している「ハーブガーデン講座」の受講生らが企画。「タイムやミントなどさまざまなハーブが育つガーデンで花や香りを楽しんでもらおう」と、8年前から開催されています。

同講座の講師・井上宏子さんは、「毎年多くのかたに来ていただいている。ハーブを見るだけでなく、触って体験して楽しんでもらえることがうれしい」と話していました。

「生命の里」仲禅寺で 写真コンサート

6月20日

希少種・モリアオガエルの観察会も

人と自然が共生する暮らしの素晴らしさを伝える「仲禅寺生命の里写真コンサート」(網野町仲禅寺地区などの実行委員会主催)が6月20日、仲禅寺集会所で開催されました。市指定文化財の「仁王像」がある同地区が、仁王の日(6月24日)にちなんで開催したもので、訪れた人たちが豊かな自然に触れ親しみました。

同地区は、希少種の「モリアオガエル」の生息地として知られており、この日、近くの池で行われた観察会には市内外から多くが参加。同地区で自然調査を続けている森豊彦さんの説明を受け、木の枝に産み付けられた泡状の卵塊などを観察しました。

集会場内では、丹後の山野草やキノコなどの生態系を撮影した写真展や、同地区の自然をハーブギターの音色にのせて映像や写真で紹介するコンサートが催されました。



森豊彦さん(左)の説明を受け、モリアオガエルの卵を観察する参加者たち

シーズン中の海の安全願い

丹後町高嶋海水浴場で安全祈願式 7月1日



宇川保育園児にエスコートされ、テープカットする関係者ら

丹後町上野の高嶋海水浴場で7月1日、「海水浴場安全祈願式」(市観光協会主催)が行われ、市内16か所すべての海水浴場が一斉にオープンしました。

式には、中山市長ら関係者約60人が出席し、神事でシーズン中の海の安全を祈願。市観光協会の長濱孝次会長が「たくさんの海水浴客に来ていただき、安心して泳いでいただきたい」とあいさつし、海開きを宣言しました。

この後、地元宇川保育所の園児9人のエスコートにより、関係者らがテープカット。海水浴シーズンが幕を開けました。

式後には、地元漁師たちによる地引き網体験の催しや丹後町中浜産の黒アワビの踊り焼きが振舞われるなど、海開きを盛り上げました。

新鮮な野菜が手に入ると好評だった「軽トラ朝市」の様子



「軽トラ朝市」新鮮野菜が手に入ると好評

6月20日

あじわいの郷月例祭に1,300人

丹後あじわいの郷(弥栄町鳥取)で6月20日、「第3回丹後あじわいの郷月例祭」が開催され、約1,300人が農産物や特産品の即売会、ステージイベントなどを楽しみました。

同月例祭は、丹後あじわいの郷協会の(丹後地域の観光・商工・機械・織物・交通・農林水産業などの関係団体で構成)が今年4月から毎月第3日曜日に開催。毎回テーマを設定して、趣向を凝らしたイベントを展開しています。

人気は、軽トラの荷台に商品を並べ直接販売する「軽トラ朝市」。新鮮な野菜・果物などが手に入るとあって、市内をはじめ近隣市町から訪れた人たちにぎわいました。網野町から訪れた女性は、「新鮮で安いので毎回来ています」と、エンドウ豆を買い求めていました。

芝生広場では、「丹後ご当地グルメ市」が特設され、丹後地域の16団体が地酒や農産物・海産物などを出品。ステージでは、子どもたちによる「キッズダンス」や丹後吹奏楽団によるミニコンサートなどが催されました。

「第23回網野町ふれあいコンサート」(同実行委員会主催)が6月20日、網野中学校で開催され、同町内の小中学生や網野町高齢者大学「唱歌」講座の受講生たち9グループが、世代を超えて合唱や吹奏楽演奏などを楽しみました。

「みんなで楽しく歌おう」を合い言葉に練習を重ねてきた郷小学校の全校児童54人は、「子どもの世界」「大空賛歌」の2曲を披露。元気よく歌い上げる姿に、会場から大きな拍手が送られていました。

前川嘉之実行委員長は「地域の子どものからお年寄りまで参加できるこの活動を今後も続けていきたい」と話していました。



練習の成果を元気よく披露する郷小児童たち

丹後お茶まつりに850人

6月20日

おいしいお茶の入れ方教室好評



参加者たちに「おいしいお茶の入れ方」を講義する磯野さん(右)

久美浜町永留の京丹後製茶工場で6月20日、「丹後お茶まつり」(京丹後製茶(株)主催)が開催され、丹後産新茶の試飲や販売、工場見学などが行われました。茶が本市の新たな産業として注目されていることもあり、この日は約850人が訪れました。

好評だったのは「おいしいお茶の入れ方教室」で、宮津市で茶舗を営んでいる日本茶インストラクターの磯野修一さんが講師。参加者たちは、「水道水を使う場合は一度沸騰させる」「お湯は70度程度で」など、おいしいお茶の入れ方のコツを学び、実際にお茶を注いで香りや味を確かめていました。

児童たちの元気な歌声響く

6月20日

網野中で、世代を超えふれあいコンサート

第4回 KTRの過去と現在と未来

インタビュー 国鉄廃止・KTRの経過を聞く

今回は、「国鉄再建法」の成立を受けて鉄道の存続をかけて地域で起こった運動の状況や、北近畿タンゴ鉄道がどのようにして誕生したのか紹介します。当時、久美浜町長だった片山茂さんと、JRからKTRに出向していた小牧雅夫さんに、そのころの「状況」や「思い」を聞いてみました。

廃止から誕生まで

国鉄民営化の波に対抗する 乗車運動

昭和55年末、「日本国有鉄道経営再建促進法」(国鉄再建法)が成立しました。営業成績の悪い赤字路線は、段階的に廃止もしくはバス路線に転換したり、民営化したりするという内容の法律でした。

廃止を回避するためには、同法の除外規定である「輸送密度(営業キロ1キロ当たり1日平均の輸送人員)が4000人以上」となることが必要でした。

昭和57年度の宮津線の輸送密度は2714人。沿線1市10町の住民ら16万7456人の署名による陳情活動が行われました。

また、「乗って残そう宮津線」をスロガンに、沿線市町が利用団体補助制



度を設けるなど、積極的な呼びかけを実施したり定期券の購入促進運動や列車を利用した遠足やゲートボール大会の開催など、さまざまな乗車運動が展開されました。

ところが、昭和62年度の輸送密度は2265人とさらに減り、国鉄として運行することの廃止が決定しました。

地域に不可欠な足として 第三セクター鉄道が誕生

「国鉄宮津線」としての廃止決定を受け、昭和62年9月には、近畿運輸局や京都府、兵庫県をはじめ沿線3市10町が「宮津線特定地方交通線対策協議会」を組織。廃止後の輸送手段について検討が重ねられました。

地元の総意として、JR西日本との相互乗り入れや行政支援(基金の設置と損失補てん)を行うことなどを前提に、「経営は厳しいが地域に不可欠な鉄道である」として第三セクター方式で鉄道を残すことが固められたのです。

いち早く昭和63年7月に宮福鉄道(株)が誕生し、宮福線が開業。その後、京都府、兵庫県、沿線市町に加え民間企業や民間団体が増資し、平成元年8月、社名を宮福鉄道から現在の「北近畿タンゴ鉄道(KTR)」に改名。「自分たちの鉄道は自分たちで守る」をスロガンに、新たな運営会社の下で、平成2年4月1日、北近畿タンゴ鉄道「宮津線」の運行がスタートしました。

元 丹後山田駅 運転主任 小牧 雅夫 さん 現在 北近畿タンゴ鉄道(株) 助役(指令長)【大宮町口大野】

元 久美浜町長 片山 茂 さん 現在 農業 【久美浜町小桑】



「鉄道をなくしてはならぬ」という気持ちで奔走

京都府から「国鉄が廃止になりそうだ」という知らせが入ったときは、衝撃が走りました。

「鉄道だけはなくしてはならぬ」という気持ちで、宮津線特定地方交通線対策協議会の沿線自治体の首長さんらと一緒に旧運輸省や国会議員の先生がたに陳情に行ったり、兵庫県や豊岡市に協力を呼びかけたりしました。

「長寿社会の到来に際し、KTRの存続は安心・安全のために絶対に必要です」

「長寿社会の到来に際し、KTRの存続は安心・安全のために絶対に必要です」

久美浜県庁舎を模して 駅舎を建設

KTRの開業日当日は特別な日です。地域の皆さんと祝ったことを思い出します。

また、沿線の各町で、生まれ変わったKTRにふさわしく、将来に残していく建物として恥ずかしくない駅舎をつくらうということになりました。久美浜町では丹後の西の玄関口として、旧代官所の久美浜県庁舎を模して日本建築にこだわった駅舎を建てたことも印象深いですね。

人の行き来ができる まちづくりを

これからの長寿社会の到来に際し、KTRの存続は市民の「安心・安全」のために絶対に必要です。

かつてもそうでしたが、鉄道がなくなると「この地は取り残されてしまう」ということを今の若い人たちが感じてさまざまなことに取り組んで欲しいです。

また、鉄道だけを存続させることを目的としたのではないことを知っていただきたいです。

来訪者に対するおもてなしを農業や商工業などみんなで取り組み、人の行き来ができるまちづくりをすることが一番大切なことだと今も感じています。ぜひ、若い世代にはがんばっていただきたいです。

手探りの状況のなか、みんなで、助け合いながら従事

「乗って残そう」という思いがよく伝わってきました。わたしたちも、皆さんの期待に沿って乗って喜んでいただける鉄道にしたいという思いで、手探りの状況のなか、鉄道職員みんなで、助け合いながら従事してきました。

「KTRの開業時は、安全輸送を徹底させることに全精力を注ぎました」

特に、宮津線廃止決定後は、JRでも宮津線の予算が年々減らされてきたため、レールの取り替えなどはKTRが直面する大きな問題となりました。また、大幅に人員削減が進むなかで、KTRの新しい電子システムの操作を覚え、安全輸送を徹底させることに全精力を注いでいま

誤った判断ひとつで、重大事故に

今はKTRで列車の安全で正常な運行を管理する「指令」業務を担当しています。宮津線内のすべての列車がどこにいるのかを常に把握しつつ、①番線、②時刻、③次列車について指差確認と喚呼(声出し)を徹底し、列

とや、災害時などには徹夜になることもしばしばあります。

地元の若い世代を 育成していきたい

KTRでは、若手運転士の育成に力をいれており、未来へ鉄道を残していくための取り組みが行われています。

しかし、指令業務に従事する社員9人のうち8人が60歳を超えました。

早く地元の若い世代を育成していきたいというのがわたしの願いです。

また、20年前は沿線の皆さんの「乗って残そう」という気運がありました。現在は、そうした当時の「思い」が薄れているように感じます。

もう一度20年前に 立ち返って

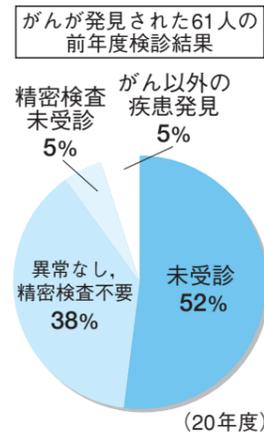
わたしたちも、輸送サービスの向上に日々努めています。少子化、高速道路無料化などの状況のなか、一人ひとりがもう一度、20年前に立ち返り、ぜひとも市民の皆さんの地元鉄道のご愛用とご理解を、お願いします。

がん検診、受けていますか？

今、日本では、死因の3分の1をがんが占めています。確かに、がんは恐ろしい病気です。しかし、早めに見つけて早めに治療を始めれば、治らない病気ではないのです。がんについて知ること、検診を受けることが命を守る第一歩です。

がん検診は、続けて受けることが大切！

20年度に市で実施した検診で、がんが発見された61人のうち、前年度の検診で「異常なし」または「精密検査不要」という結果のかたが約4割、検診を受けていないかたが約5割を占めました。

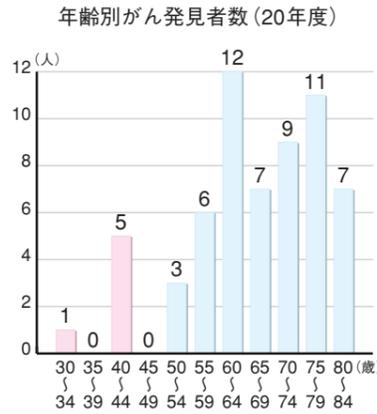


「去年の検診で異常が見つからなかったから、今年は受けなくても大丈夫」と思っていますか？ それは大きな間違いです。がん検診は、続けて受けることが大切です。

いつがんが発症するかはだれにも分かりません。また、がんは初期症状がほとんどなく、とても見つけにくい病気です。まずは、がん検診を受けることが第一歩。「異常なし」でも安心せず、定期的に続けて受けることが大切です。

「まだ若いから大丈夫」？ 甘い！

30代・40代の若い世代でも、高齢者に比べると少ないものの、がんが発見されています。「まだ若いから大丈夫」などと考えずに、対象年齢(表1参照)になったら欠かさずがん検診を受けましょう。



がん検診はすべて無料。申し込みましたか？

市では、すべてのがん検診を無料で実施しています。申し込みがまだのかたも大丈夫。この機会にぜひがん検診を受けましょう。申し込みは健康推進課まで。

(表1) がん検診対象年齢

子宮頸がん	20歳以上の女性(2年に1回)
乳がん	40歳以上の女性(2年に1回)
胃がん・大腸がん・肺がん・肝炎	40歳以上のかた
前立腺がん	55歳以上の男性



血液は人の手ではつくれません。献血にご協力を！

市制施行後最多！ 21年度の献血受付3,405人

21年度、献血バスが市内49会場、延べ45日にわたって稼働し、総勢3,405人が献血の受付をしました。

献血に訪れるかたは年々減少傾向にありましたが、21年度は市制施行以来最高の献血受付人数となりました。これは、地元企業から例年以上に献血会場を提供していただいたため、京都府内においてもトップクラスの献血実績を達成できました。ご協力ありがとうございました。

7月は「愛の血液助け合い運動」月間です

夏季は、長期休暇などの関係で学校や企業などの献血協力が得にくい時期ですが、輸血用血液は季節に関係なく年間を通して必要です。

そこで、血液の安定的な確保を目指し、毎年7月に厚生労働省や日本赤十字社などが「愛の血液助け合い運動」を全国で展開しています。

皆さんもこの機会に、ぜひ献血にご協力をお願いします。血液は、人の力で作ることができません。献血は、人々の善意で支えられています。

英国滞在歴に関する献血制限が緩和されました

これまで、「vCJD(変異型クロイツフェルト・ヤコブ病)」の輸血による感染を防ぐため、1980年から1996年までに英国に1日以上滞在していたかたの献血が制限されていましたが、今年1月から**通算1カ月(31日)**以上に緩和されました。英国滞在歴があるため献血を控えていたかた、ぜひ献血会場へお越しください！



京都府で取り組んでいる市民生活にかかわる事業などについて紹介しています。

丹後の歴史を伝え続けて40年。丹後郷土資料館へ行こう！

40周年記念特別企画展を開催



開館40周年を迎える府立丹後郷土資料館

国宝、重文など 収蔵資料は10万点超

昭和45年11月、天橋立を一望できる宮津市国分に開館した丹後郷土資料館では、府北部の歴史・考古・民俗などの資料を収集・保管し、展示などで活用しています。また各種講習会を実施したり、学校を対象に出前授業を行ったりと、たくさんのかたが丹後の歴史や文化財に触れ、親しめるよう活動しています。

収蔵資料は、国宝1件、重要文化財9件、府指定文化財17件を含む11万点余り。随時、展示会で公開しています。

敷地内には、奈良時代に国を守るため諸国に建立された寺の一つ、丹後国分寺跡があります。また、平成7年には、宮津藩の庄屋を務めた永島家の母屋である旧永島家住宅(府指定文化財)を敷地内に移築・復元。見学施設としてだけでなく、紙すきやそば作りなどの体験学習の場として活用されています。

開館40周年プレ事業 夏季企画展
「国分寺再興—中世丹後国分寺と律宗寺院—」
 奈良時代に建立され、中世に再興された丹後国分寺。その軌跡を、中世を中心に振り返ります。
期間 7月17日(土)～9月5日(日)
休館日 毎週月曜日(月曜が休日の場合は火曜休館)
■文化財講座「中世西大寺律宗と石造美術」
 7月24日(土)14時～16時



「建武丹後国分寺再興縁起」(重文/南北朝時代/国分寺蔵)



古墳時代の豪族の石製腕飾類(京丹后市カジャ古墳出土)

開館40周年記念 秋季特別展
「大丹波展—豪族たちの栄華—」
 古墳時代の丹波の地域政権。その興亡の歴史を紹介します。
期間 10月2日(土)～11月23日(火・祝)
休館日 毎週月曜日(月曜が休日の場合は火曜休館)
■文化財講座「大丹波の王たち—タカノからヤマトへ—」
 10月16日(土)14時～16時
■文化財講座「往還するタニワ王墓—赤坂今井から内場山・西求女塚を経て網野銚子山へ—」
 11月13日(土)14時～16時

※観覧料が必要です。詳しくはお問い合わせください。京都府立丹後郷土資料館 ☎0772-27-0230
 ホームページ: <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/>

国民文化祭・京都2011

開催まであと
477日
 (7月9日現在)

マスコットキャラクター「まゆまる」

図書館だより

今月のおすすめ図書

大人向けの本

■小池芳子の手づくり食品加工コツのコツシリーズ
小池芳子／著 農山漁村文化協会



食品を加工して、朝市などで販売することを視野に入れて編集されている料理本です。ほかの料理本とは一味違う、よりおいしく、より安全に作るための食材の選び方から保存の仕方まで、参考になるコツが満載です。

子ども向けの本

■世界の鳥の巣の本 鈴木まもる／著 岩崎書店



鳥たちは、ヒナを守るために、びっくりするほど工夫して巣をつくっています。どんな言葉でそれを伝え、教え合っているのでしょうか。「自然」に学ぶことはたくさんあると感じられる本です。鳥たちのすごい巣をぜひご覧ください。

■すみ鬼にげた 岩城範枝／作 松村公嗣／絵 福音館書店



奈良の唐招提寺の金堂の四隅にいる「邪鬼」。そのうちの一体だけが表情が違うのはなぜだろう？ おはなしは、大工見習いの少年がその「すみ鬼」と出会うことから始まります。読むと「すみ鬼」と会いたくなる本です。

◆開館時間／10時～18時（峰山・あみのみ水曜は19時まで）
学校などの夏季休業期間（7/21～8/28）は9時開館
◆貸出／1人20点まで・2週間
◆問い合わせ先／峰山図書館（☎62-5101）大宮図書館（☎69-0672）
あみの図書館（☎72-4946）弥栄図書館（☎65-2101）
久美浜図書館（☎82-1771）丹後図書館（☎69-0664）

7月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
8/1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14

赤字は休館日です。

★春のお楽しみ会で笑顔あふれる 弥栄図書館

弥栄図書館は、5月15日に「春のお楽しみ会」を開催し、大型絵本の読み聞かせ、マジックショー、工作などを行いました。



大きな絵本にびっくり、不思議なマジックにさらにびっくり。たくさんの子もたちと楽しい時間を過ごすことができました。

工作では、みんなで「びゅんびゅんゴマ」づくりに挑戦。ひもを通すのに苦戦しながらも、楽しくつくりました。弥栄町外のかたもたくさん参加し、「楽しかったです！」と笑顔で話していました。

◆図書館協議会委員を任命◆

市立図書館は、図書館の運営について意見をいただくため、「図書館協議会」を設置しています。このたび、前委員の任期満了に伴い、10人の委員を任命しました。

峰山	松下 美穂	久美浜	岩崎 雅夫
	増田 明子		畑中 敏子
網野	藤田 陽子	弥栄	金久 久仁子
	浜岡 輝行		深田 和幸
大宮	田村 美由紀	丹後	東 恵美子

(敬称略)

平成17年に国の天然記念物、名勝に指定された琴引浜は、網野町掛津にある白砂青松の景勝地です。全長1・8キロの砂浜で、すべてが「鳴き砂」でできています。



「日本の渚100選」「日本の音風景100選」「日本の白砂青松100選」に選ばれた琴引浜

また、岩礁の見える浜の西側は、浜をたたくと、「ドンドン」と鳴ることから、太鼓浜と呼ばれています。琴引浜の鳴き砂は、十分に洗浄され丸く研磨された石英の粒、カリ長石の粒などで構成されています。これらの砂の表面の摩擦係数が極めて大きいため、力が加わると一団となつて振動し、音が出ると考えられています。鳴き砂の浜は全国で約40か所ですが、その規模や音の質から、琴引浜は最も優れた浜である

水晶が奏でる不思議な音

また市では、「京丹後市美しいふるさとづくり条例」を制定し、全国初の禁煙ビーチとするなど、環境保全の取り組みを行っています。



山陰海岸ジオパーク

今月のおすすめジオサイト

ことひきはま 琴引浜（網野町）

②



離湖古墳の長持形石棺（底石）

離湖古墳は、先月号で紹介した離湖古墳と同じく、離湖公園内の山の上にあります。（地図：6月号掲載）
明治31年5月22日に稲葉宅蔵（久美浜町）は、「小浜湖中離島ノ一角、遙ニ古墳ノ形ニ似タルヲ認め、予ハ案内者ニ尾行シテ之ヲ探ル、果シテ古墳ナルカ如シ。」と記し、兄の稲葉市郎右衛門が写真撮影を行いました（『東京人類学会雑誌』第1

はなれここふん 離湖古墳（網野町小浜）



明治31年の離湖古墳（稲葉家写真資料）

42号）。この写真は、離湖古墳（写真Ⅱ右上）を撮影した最も古い写真として貴重なものです。しかし、明治43年7月1日に離湖古墳を訪れた宮内省（現在の宮内庁）の増田于信は、「小浜離湖上古跡ハ別ニ由緒アルモノニアラス」と評価したため、古墳であることは忘れられたようです。
その後、平成2年に網野町教育委員会が発掘調査を実施。その結果、東西34メートル、南北43・4メートル、高さ6・35メートルある、古墳時代中期（5世紀）の有力者の墓であることが分かりました。
墳丘上に造られた埋葬施設は、石棺を納めた第一主体部と、木棺を納めた第二主体部があります。
木棺からは石釧、銅釧、玉類、鉄器、青銅鏡など古代の丹後を知る上で貴重な資料が多数出土しています。
また、第一主体部の長持形石棺（写真Ⅱ左上）は、盗掘されており底石だけ出土しましたが、別名を「王者の棺」とも呼ばれ、古墳時代中期の有力者を葬った石棺として用いられたものとして知られています。京都府下では長持形の石棺は6例が知られており、そのうちの4例が京丹後市域に集中しています。
離湖古墳は、離湖古墳と同様、現在は京丹後市指定史跡となっています。

★長持形石棺は、覆屋の中に保存されており、現地にて見学できます。ぜひご覧ください。

京都府丹後文化会館 インフォメーション

お問い合わせ先 京都府丹後文化会館 ☎62-5200

【京都府丹後文化会館開館30周年記念】



京都フィルハーモニー室内合奏団

京フィル&白鳥英美子「ワンダフル・ワールド」

♪地元合唱団共演♪フラワーコーラス・大宮児童合唱団

<ヴォーカル>白鳥 英美子さん
<指揮>井村 誠貴さん
<管 弦 楽>京都フィルハーモニー室内合奏団

プログラム

「パリのアメリカ人」「ジュピター」「明日に架ける橋」「日本の四季より」「アメイジング・グレイス」「誰もいない海」「空よ」「タイム・トゥ・セイ・グッドバイ」「ドレミの歌」「ひとりぼっちの羊飼ひ」「見上げてごらん夜の星を」

※曲目を変更する場合があります。



白鳥 英美子さん

◎場 所…京都府丹後文化会館（峰山町杉谷）
◎開 演 日…8月29日（日）
◎開場時間…13:30 ◎開演時間…14:00
◎入 場 料…【全席指定/税込】

前売券 好評発売中!!

【一 般】前売3,000円（当日3,500円）
【中学生以下】前売2,000円（当日2,500円）
※未就学児のご入場はご遠慮ください。
※開演後は曲間入場となります。

主催：京丹後市、(財)京都府丹後文化事業団「助成：(財)地域創造」



宝くじは 豊かさ築く チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。



kyotangojin

かくやま いくは
角山 育羽 さん (21歳)

弥栄町野間



明るく元気な
緑の協力隊

今年4月から弥栄町野間で地域に密着した活動を行っている角山育羽さん(新潟県南魚沼市出身)をご紹介します。

育羽さんは、東洋大学(東京都)のギヤップイヤー制度(社会的な見聞を広めるための猶予期間を与える制度)を活用し、NPO法人地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊」に応募。京丹後市に派遣されました。

「自分にはまだまだ無知な部分がある。多くの人とかかわり一緒に活動しながら、何が自分に合うのかを見極め



炭窯へ間伐材を入れて炭づくりを手伝う育羽さん

たい。応募のきっかけをこう話します。

来年3月末まで、農林水産業関係の活動を中心に、デイサービスや小学校の授業を手伝うなど地域に根付いた活動に取り組みます。

野間に来て3カ月——。たい肥や農薬を一切使わない「自然栽培」と出会い、「農業に興味を持った」と話す育羽さん。農業に関する本を読み農業体験を通じ日々勉強中とか。

「どえりゃー」「いぬる」：などの丹後弁にとまどうことも。「自分も丹後弁に慣れ親しみたい。聞いた丹後弁はメモに書き留め、意識して使うようにしています」と積極的です。

「野間に住んでみて、皆さんが人を大切にし、出合いを大切にしていることをすごく感じました。また、地域に入って、いいところも悪いところも見ることで、村の歴史や人の温かさを感じています。多くの人との出会いと協力隊の取り組みを通じて、丹後に形として残せるものを見つきたい」と人との出会いを楽しみにしている育羽さんでした。

毎週木曜日朝8時15分から、「FMたんご」に出演して活動報告などを放送中。

つぶやき

ジオパークについて勉強を重ねていくと、大地の営みはわたしたちの暮らしに本当に深くかわわっているんだなあと思ひ知らされます。

「人は土から離れては生きていけない」と某名作映画のヒロインは言いましたが、まさにそのとおり。この先どんなに文明が発達しても、人が大地から離れることはないでしょう。そう考えてみると、「貴重な地質の宝庫」と評される山陰海岸に住んでいることが、誇らしく思えてきませんか? / 信

人口・世帯数

男	29,717人	(-26)
女	31,767人	(-28)
計	61,484人	(-54)
世帯数	22,166世帯	(+19)

(6月1日現在・()内は前月比)



山陰海岸ジオパーク

めざせ！世界ジオパーク